



門川町教育研究所だより

# ふれあい

平成29年5月 NO2  
発行 門川町教育研究所  
所長 新原とも子  
TEL 63-1566  
五十鈴小学校内(教育相談室)

門川町教育研究所では、門川町の教育的課題である「確かな学力の向上」を図る取組の一つとして27年度から「ICT機器を効果的に活用した授業」の研究・実践に取り組んできました。取組3年目となる今年度はその研究を深化させ先生方へ普及推進すること、子どもたちがICTを活用して学習を進めていく授業研究を実践し情報提供することを目指していきたくて考えています。その研究に取り組む町内6名の先生方を委嘱状交付式の様子とともに紹介したいと思います。



## 研究員に委嘱された6名の先生

## 委嘱状交付式は5月8日でした!

門川小 鮫島 雅朋 教諭

新

草川小 長友 有紗 教諭

再

西門川小 吉田 義 教頭

新

新

五十鈴小 金丸 宏美 教諭

新

門川中 茶菌 龍樹 教諭

再

西門川中 吉田 義一 教諭



交付式で委嘱状を受け取ったあと、一人一人自己紹介する研究員の皆さんです。

今年度、新しく研究員となったのは4名です。昨年度から継続する先生が2名います。



最後に、研究員を代表して西門川小学校の吉田教頭がICT教育の研究に力を合わせて取り組んでいく決意を述べました。

## 交付式終了後、早速、第1回目の研究員会を行いました!

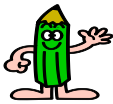
### 所長講話



研究員会最初の研修は新原教育長に所長講話をしていただきました。平成11年度開設から研究所が取り組んできた研究の歴史について話され、「方法は違うが登る山は同じ(一つ)である。」～確かな学力・生き抜く力を身に付けさせる～と強調されました。研究所での研究は、全て門川町の子どもたちのためにある。先生方にその普及を図ることにある。と言えるでしょう。

研究員はこんな形で1年間活動します!

研究員は原則として毎月3回、月曜日の勤務が終了したあと、五十鈴小学校内にある教育研究所に集まり午後7時頃まで研究課題に取り組みます。年間合計33回ほど研究員会を行って研究成果をまとめ、研究発表大会、教育論文表彰式他、毎月の広報紙「教育研修情報」やこの「ふれあい」を通して情報提供し、その普及に努めます。



## 子育て応援～5月連休後の子どもの様子はどうですか？

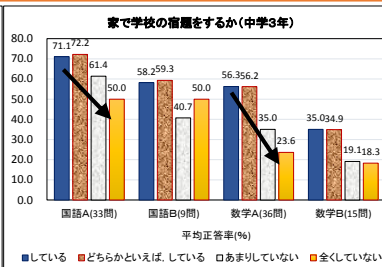
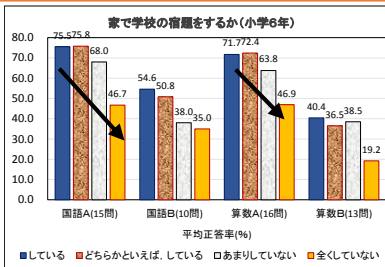
5月はじめの大型連休も終わり、新学期開始から一ヶ月以上が過ぎました。この時期になると、子どもたちも新しい環境に次第に慣れてきますが、その度合いは様々です。うまく順応していく子どももいれば、歯車がちょっと噛み合わなくなり困り感が出てくる子どももいます。

4月号で「気になる子どもの変化」→「早期発見・早期対応」の記事を掲載しましたが、我が子は今日も元気に登校・笑顔で下校・真っ直ぐ帰宅していますか？小さなサインを見逃していませんか？



## “かどがわ4か条”の実践で子どもを支えましょう！ 「その3 学習をしている子どもを応援します！」実践で学力向上を

昨年度の全国学力・学習状況調査での門川町小6児童・中3生徒の状況です。Aが基礎、Bが応用問題の平均正答率を示しています。本年度の状況は結果がわかり次第、お知らせしたいと考えています。



家で学校の宿題をする児童生徒とそうでない児童生徒の正答率には大きな差があります。その差は小・中とも段階的であることがわかります。家で宿題をする習慣が、いかに大切であるかがわかります。

本の一節  
心に残った

「誰もが昔は生徒でした。教室で、グラウンドで、先生がくれた言葉に、いま、ありがとう！」。ラジオ番組「ありがとう、先生！」のナレーター純名里沙さんのナレーションです。この番組が伝える、生徒に届けられた先生の言葉をまとめた本の一節を紹介します。

〔出典：TOKYO FM 発行「ありがとう、先生！」より〕

### 「勇気」がわくコトバ

\* その1 “できないんじゃない。やらないだけだ”

～苦しくて逃げたいときに「できません」というのは、自分自身で妥協して諦めているだけだと教えられました。結果はどうであれ、チャレンジすることの大切さに気付かされました。

\* その2 “できません”ではなく“やってみます”

～できない事でも「やってみます」という心構えが大事と教えていただいた。



## 子どもの教育や子育てで、悩んでいませんか？

困った時には、教育相談室に気軽に電話をしてください。

相談電話（門川町教育相談室）  
Tel・Fax 63-1566

～～～返信欄（教育研究所便り「ふれあい」へのご意見やご感想をお聞かせください。）～～～

※学校の先生へお渡し下さい。（先生方へ～お手数ですが、研究員を通じて研究所までご送付願います。）